

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 29 年度第 3 回高松市廃棄物減量等推進審議会
開 催 日 時	平成 30 年 2 月 21 日(水) 10 時 00 分 ～ 12 時 00 分
開 催 場 所	高松市役所 11 階 114 会議室
議 題	(1) 高松市一般廃棄物処理基本計画の改定について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出席委員	10 人 生嶋暹、岩部旻、栗島由紀子、篠田大輔、高橋一成、古川尚幸、古川由美、細谷芳久、松山千恵子、龍満美廣
欠席委員	3 人
傍 聴 者	0 人    (定員 10 人)
担 当 課 及 び 連 絡 先	環境総務課    (Tel.839-2388)

### 審議経過及び審議結果

#### (1)高松市一般廃棄物処理基本計画の改定について

(事務局説明)

(委員)

次期計画に記載のグラフのタイトル「1人1日あたり 95g 減量の目標達成状況」について、何の減量かが分かる表現にした方がよいと思う。

(事務局)

表現を工夫したい。

(委員)

再資源化量の減少の原因について、店頭回収の影響を記載しているところとしていないところがあるので、整合性をとった表現がよいと思う。

(事務局)

整合性の取れた表現にしたい。

(委員)

リサイクル等を進めるうえで、ごみの分別が非常に重要になるので、分別という表現を、次期計画の早い段階において、もう少し重みをつけた形で記載した方がよいと思う。

食品ロス対策は、県でも進めており大事なものと理解しているので、生ごみ対策などの取組に重みをつけた方がよいと感じた。

(事務局)

食品ロス対策等の推進は、重点取組として位置づけしており、生ごみ処理機等の普

及啓発などにより生ごみの減量化を推進したい。

(委員)

現行計画では、当初目標を約5年で達成し、目標を変更した経緯があるが、次期計画の目標をどうやって設定したのか。非常に難しい計算をしているようだが、我々の生活に馴染むように分かりやすくポンチ絵で、人が朝起きて寝るまでの食事や行動、ごみがどのくらい発生して、どのくらい減らす必要があるのかなどを表現してもらいたかった。分かりやすくしたものを、コミュニティセンター等に置いておき、我々がごみ減量のためにどうすればよいかを考えていけるようにしていただければと思う。現行計画の目標が乖離していたことを踏まえ、次期計画の目標を考えていただきたい。

業界に関することだが、収集運搬業者の許可について、最高裁がごみの量に対応した適正規模の収集体制を確保するよう示している。市が合併したとき、高松市のごみを7社37台で処理していたのが、ごみ量と関係なく、一番多いときで約160社となった経緯がある。次期計画では、このことについて少し反映していると思うが、許可には新規と更新があり、現在、新規許可を制限しているが、今ある約150社が適正な収集運搬体制なのかということ。ほとんど仕事をしていない許可業者が約100社あるが、そういった業者を買い取られるといったケースがある。

基本計画では、せめて「新規許可の制限」ではなく、「許可の制限」といった表現にしてもらいたい。

(事務局)

次期計画では、例えば家庭系ごみの減量について、平成28年度における1人1日当たりの排出量と10%削減した場合をグラフ化するとともに、目標達成に向けた取組についても、従来からの取組に、新たに生ごみの水切りや食品ロス対策に取り組むことを記載している。

収集運搬業者の適切な許可の指導については、ごみの排出量や既存許可業者の収集運搬能力を勘案することとしている。新規許可は平成29年度から制限しているが、更新を直ちに制限することは、許可業者の経営基盤に影響があることや、明確な基準が整備されていないことなどから、現時点では難しいところがある。全国的な状況や運用方法、関係法令など十分把握したうえで、今後、更新部分をどうするかを検討したい。なお、許可制限の表現については、もう少し検討したい。

(会長)

現行計画の目標と実績の乖離について、何か検証などを行ったか。

(事務局)

事業系ごみの排出量についてだが、平成22年度あたりまで減量が進み目標を見直したが、その後、横ばいの状況となった。当時、業者による紙類の回収・資源化ルートや、食品リサイクル法の整備により、ごみ減量が進むものと思われたが、変更後の目標には届かなかった。

(会長)

その辺りの説明があった方がよいと思う。

意見としてだが、目標が数値だけだと、達成できた、できなかったとなるので、可能であれば、目標に幅を持たせてはどうか。

許可の制限については、今の状況をよく理解できたが、法律等の問題もあり、この

場で審議会の意見を出すことは難しいので、事前に事務局と十分協議してもらおうことや、引き続き協議していただくといった問題なのだと思う。

(委員)

本来、一般廃棄物は高松市が処理しなければならない。それができなくて、委託や許可で処理するということは、処理を任された人は、高松市と同じ考え方でしっかりと市民のために行わなければならない。ごみの量が増えないのに、許可業者が増え、事業が非常に危ぶまれているところがある。

(委員)

状況はよく分かったので、事務局と協議してもらいたい。

計画は、パブリックコメントを行い問題なければ決定するのだと思うが、こういう減量を行えば、こうなると言った具合に、市民が分かりやすいかたちで説明会を行ってもらえれば、有効な周知になると思う。

(会長)

今後、周知はどのように行うのか。

(事務局)

周知会の開催は考えていないが、衛生組合やリサイクル推進員に御協力いただくなどして周知するとともに、具体的な取組を通して周知などを行いたい。

(会長)

市民は、計画の概要版などを、どこで見ることができるのか。

(事務局)

市ホームページに掲載し、常に見られる状況にしたい。

(会長)

市ホームページでは、市民が見に行こうと思わなければ機会がないので、広報紙への掲載などはどうか。

(事務局)

広報紙への掲載を検討したい。

(委員)

衛生組合の総会やリサイクル推進員のブロック会など、今ある組織活動の中で、できるだけ周知していくということや、まず手掛けたいと思う。また、全員に周知できるような体制が必要だと思うので、各地区の衛生組合や連合自治会とタイアップして、周知できるような取組を行ってはどうかと思う。

(委員)

どうしてごみを減らさなければいけないのか、どうやったらごみが減るのかといったことを、子どものときから考えることや教育を受けることが必要なのだと思う。

(会長)

子ども向けのパンフレットのものを、小学校等で使用してくればよいと思う。

(事務局)

小学校4年生を対象にした補助教材として副読本を発行している。今後は、食品ロス対策や2Rなどの取組を周知していきたいと考えている。

(委員)

食材のカロリー表示のように、これをする、ごみがこれぐらい減るといったもの

が、生活のいたるところにあれば、減量しようとする意識が身につき効果が違ってくる。

(事務局)

資料編になるが、家庭系ごみであれば、水きりで3.8g／人・日の減量が見込めるといったものを例示している。

(会長)

代表的なものでいいので、イラスト等を利用するなど数値だけでない表示方法はどうかといった意見だと思う。

(委員)

夏休みの出前講座などでは、子どもだけでなく両親も来ているので、そういった機会でも、先程皆さんが言われたチラシ等を活かしてはどうかと思う。

(委員)

食品ロス、スーパー業界でも課題としてとらえている。店舗によっては、1日500人から多いところだと2,000人の女性がいらっしやるので、そこでパンフレット等を配布してもらうことも有効だと思う。食材を美味しくつかいきるアイデアレシピなどパンフレットに書いてある食材が目前にあれば、より記憶に残りやすいと思う。

(事務局)

食品ロス対策は重要なものと考えており、どうすれば事業者の皆さんへの周知啓発が図れるかなど、これから検討していきたい。

(会長)

私は、県の食品廃棄物削減推進協議会にも籍を置いているので、県が作成している食品ロスに関するパンフレットを、市町も利用できるようにと話している。県と市町の取組がダブリ無駄にならないよう、協力連携してもらえればと思う。

(事務局)

県と協力連携していきたい。

(委員)

次期計画では、社会経済情勢に対応した家庭系ごみ収集運搬の維持について、「社会経済情勢に対応した適切な収集運搬体制を維持します。」とあるが、高齢化社会が進み100年時代と言われている中、維持ではなく、こう対応するよう努めるといった表現の方がよいと思う。

また、不適物警告シールだが、何曜日に何を出せばよいのか絵で表すなどすれば、高齢者にも分かりやすいと思う。

アンケート結果が、これからどう反映されるのかが見えにくいので、例えば広報紙の一コマに、牛乳パックをまな板がわりに使用するなど活用方法を掲載していくとか、アンケート結果はこうで、達成するところは達成したという方が、モチベーションが上がると思う。アンケート結果では、皆さんごみに関心があるということが印象に残っているが、その一方で手間がかかる、どうしたらいいか分からないといった意見があったので、リサイクルの方法を掲載した本を、目につきやすい場所に設置するなどしてはどうかと思う。

(2)その他について

(紙ごみリサイクル推進モデル事業について事務局説明)

(会長)

私からのお知らせですが、環境問題について色々な活動をする学生グループを作った。現在、学生地球温暖化防止活動推進員として1年活動することで、2年目から地球温暖化防止活動推進員として認定してもらえる仕組みを作って活動している。地球温暖化防止活動だけでなく、色々な環境問題に取り組んでいきたいと考えており、去年の12月から5・6回、食品ロス削減のイベント「ともにキッチン」を行っている。

(委員)

太田のグランデリーズは、基本的にお客様キッチンということで、毎週金曜日に色々な料理方法を紹介しており、そこを使用してもらうことも可能かと。

(会長)

一緒にできればと思う。